

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ
第 29 回 議事録

1. 日 時： 平成 23 年 10 月 15 日（土） 11:00～12:50
2. 場 所： 奈良文化女子短期大学 本館 5 階（第 1 演習室）
3. 参加者： 22 名

4. 内容

(1) はじめに

①参加者 自己紹介

新規参加者：小西浩嗣（帝塚山大学）

②学生参加者

1 回生：金本陽子 川口紗世 松原唯 山口明子 山口由美子

2 回生：金谷紗也加・古埜恵梨香・松田輝子

（藤田春奈・日野鈴佳・吉田仁美・安村真理子）

(2) 幼小連携資料及び実践から学ぶ

全国の幼小連携の実践資料等から情報交換

① 徳島県鳴門市立板東幼稚園の取組事例

鳴門教育大学 前田洋一准教授

奈良文化女子短期大学 善野八千子教授

○人事交流の実施

幼稚園教諭が小学校へ、小学校教諭が幼稚園へ、1 年間を通して勤務する取り組みから得られた実践に基づいて報告

○小 1 プロブレム

- ・子どもと教師との距離が遠くなる。
- ・環境がかわる。(教科書・教育方法チャイム制など)

○幼稚園と小学校の違い

○カリキュラム作成にあたって

- ・ 3 つの自立（学びの自立・生活上の自立・精神的な自立）

② 岐阜県の取組事例

岐阜県山県市教育センター

大山夏生主幹

岐阜県山県市立高富小学校

上野美香教諭

○教育センターだより「かけはし」より発表

○スタートカリキュラム研究会で学んだこと

- ・ 保育園での幼児の実態や保育士の支援について
援助の仕方と言い聞かせのバランス
- ・ 就学一ヶ月前の幼児の実態や支援について
保護者の戸惑いを知る

どの先生が 1 年生担任になっても子ども理解が可能な小学校の研修体制が必要

- ・ 保育の参観後について

例：小学校のプール指導のシャワーで泣き出す子どもがいる。幼児期から水に慣れ親しむ体験している。幼稚園では 3 歳からペットボトルシャワーなどで徐々に強く大量の水も慣れて、次第に本物のシャワーへの抵抗がなくなり、水に親しむようになる。しかし、小学校は 6 年生仕様の高さから出るシャワーにいきな

り出会うということがある。

(3) 接続カリキュラム2月～3月作成版の改訂及び週案作成

◆就学前カリキュラム改訂作業のためのフォーマットについて

奈良文化女子短期大学 教授 善野八千子

◆幼小混合グループでのワークショップ

(模造紙に前掲の幼小接続カリキュラム就学前週案フォーマットを貼付し、書き込み。)

先に提示したフォーマットを確認し、「1日体験」「遊び・制作活動」「春の自然」の3グループに分かれて、『就学前第3週目』週案について具体的に討論。活動カテゴリーを軸として、幼小合同で3グループに分かれて話し合った。

週案レベルの具体案の検討を重ね、“子どもの姿が見える”カリキュラムの作成をしていく。

幼小混合グループ少人数で意見交換によって、双方の教育課程の理解と改善に役立てている。小学校での指導を容易くすることを目的とした就学前カリキュラムではなく、就学後に子どもの育ちと学びがつながるためには、どのようなカリキュラムの改善が必要かを幼児教育と小学校以降の教育に関わる者が共に検討して週案・日案レベルまで作成している。

以下、グループごとの検討内容（前回の内容を引き継いで加筆。）

<第一グループ>◆一日体験（学校ごっこ）

- ・一日体験の活動案作成（幼稚園と小学校のねらいと活動の併記）のための構成の仕方考えた。
- ・幼児教育からの願いとして、「小学校の一日体験は、普段通りの学校生活を体験させてほしい」ということである。音楽発表会などの特別な活動体験は、幼稚園に見せるための時間外の練習等の負担感を教師が持つ。また、幼児の一番の楽しみは「勉強したい」ということであることを小学校に事前に伝えておく必要がある。また、目標設定して、指導案を検討する場を共有することが重要である。
- ・小学校での学びとして、実際の教科の学習体験ができる一日体験をしていくのがよい。
- ・保育者は、小学校に引率するとき、支援の必要な子どもの見守りなどに終わりがちである。しかし、体験した感想を子ども一人ひとりにもてる体験入学にしていくことが重要である。
- ・活動後の振り返りとなる子どもの感想については、幼児教育施設に帰ってから園児同士で伝え合うのではなく、1年生との交流の現場で発表する。このことによって、1年生の満足感、達成感、進級への自覚などが確かなものになると考えられる。

<第二グループ>◆遊び・制作活動

- ・基本となる遊びをする。
- ・団子結びからリボン結びへ
- ・生活の中から結ぶ体験の取り出し（お弁当のつつみ・とび縄の片づけ）
- ・ひも結びを通して細かい作業ができる力をつける。
- ・粘り強さや観察力から文字指導にもつながる。（例：「わ」と「れ」の違いなど）
- ・とび縄の片付け方を知る。（小学1年生の体育の時間では10で結べることを目標にするなど）

<第三グループ>◆春の自然

環境構成（学習園・畑）

- ・春に咲く花の球根植えと生長の変化への気づき（チューリップ・パンジー・すいせんなど）
- ・春から夏野菜栽培の経験（スナップエンドウ・ナス・とまと・ししとう・とうもろこし・き

- ゆうり、とまと・オクラなど)を生かす。
- ・冬野菜の栽培(ブロッコリー・白菜・キャベツなど)
- ・栽培方法をゲストティーチャーに学ぶ。(地域連携:土づくり・肥料の与え方・世話の仕方)
- ・キャベツの栽培にはストーリーがある。
- ・キャベツとアオムシの物語
「育てるアオムシさん」と「ごめんなさいアオムシさん」(全てのアオムシは飼育できない)
- ・飼育観察を通じた学び。
- ・アオムシは何を食べるのか、問題解決。(白菜は食べないアオムシ。スーパーで購入したキャベツは食べない)
- ・「栽培」から「食育」へとつなげていく。嫌いな食べ物が食べられるようになる子ども。
- ・命の大切さを学ぶ。

<参加学生の感想抜粋>

●やっぱり研究会のパワーはすごいです。私は元気と勇気をたくさん頂きました。へこんでいる場合じゃないって思いました。現職の先生が私にグループ発表のチャンスを下さった事も大変嬉しく思いました。何度か参加していることや「今日の数なら」と考えて下さったのかなと、後になり考えるとさらに有りがたかったです。またよろしく願いいたします。

●今日は、クラブ活動のため、短時間しか参加できなかったのですが、徳島県の『学びのかけ橋プロジェクト』の報告が印象に残りました。幼稚園教諭が小学校へ、小学校教諭が幼稚園へ1年間を通して勤務する取り組みについて聞いて驚きましたが、幼稚園、小学校と子どもの先の成長を考えていかなければならないと感じました。その為には幼稚園・小学校がより連携し、相互理解を深めていき、『学びのかけ橋プロジェクト』は必要な取り組みだと思いました。小1プロブレムについては小学校教諭が幼稚園での子どもの姿や、支援・援助などを学ぶことによって、理解することができなかった子どもの行動が理解できたりと新たな発見や学びがあったのだと分かりました。

次の、岐阜県のプール指導の例を聞いていると、思わず頷いてしまいました。

また、幼稚園と小学校の連携がいかに重要なのか、幼稚園の年長から小学一年生の間は教師との関わり方や生活環境が大きく変わるといふことを知ることができました。

初めて研究会に参加させて頂いた時には、なぜ就学前3週目の週案についてグループに分かれて話し合うのか分からなかったのですが、『学びのかけ橋プロジェクト』の話聞いて分かりました。

●難しくても分からないこともありましたが、理解できる事もあり、話しを聞いているだけでとても勉強になりました。研究会には全国各地から現役の先生方が来て下さるので、グループワークショップでの現役の先生方の話や他県での取り組みについての報告など、教科書や授業では学べないことがたくさん知れるので良かったです。

4. 次回の予定 平成23年11月19日(土) 11:00~12:30

*毎月定例は、第3土曜 11:00~12:30